

月刊

ロシア通信

7

特別企画

ブーチン大統領が訪中
ガス交渉がついに妥結



JSN

ロシア雑感 “観光・発展途上国”のロシア＆日本

桜美林大学教授 鈴木 勝

8年前までは、まったく縁がなかったロシアが、ある期を境にして接触が多くなった。大学教授になる前に、33年間旅行会社に勤務し多くの国々を巡ったが、なぜかロシアには全くチャンスがなかった。最近では毎年、ロシアを訪問し講演するか、または、訪日したロシア人観光専門家の研修講師を引き受けている。また、2年毎の日ロ沿岸市長会議の専門家として出席。その結果、訪問都市はモスクワ、サンクトペテルブルク、サラトフ、オレンブルグ、イルクーツク、ウラン・ウデ、ヤクーツク、ハバロフスク、ウラジオストク、ナホトカなど合計10になった。「観光模範モデル・日本」につきレクチャーするが、これは毎年1700万人ほどの「日本人海外旅行者」のことであり、「いかにロシアは外国人の受入れ態勢を整えるべきか」が中心的テーマ。一方、日本政府の外国人誘致キャンペーンが2003年に始まり、世界から外国人が多くなっている。しかし、日本人による受入れ態勢は今なお未熟で、世界的レベルでは、日本もロシア同様に“観光・発展途上国”といえそうだ。日頃のロシア＆ロシアとの接触の中で、“観光立国ニッポン”的ためのヒントを多く見つけている。それらを紹介したい。

●会議参加の観光関係者の職種と内容

初のセミナーはサンクトペテルブルクで50人ほどのロシア人観光関係者を対象。主催は「サンクトペテルブルク日本センター」。何と言っても驚きは、参加者の職種。旅行会社、ホテル、バス会社、観光ガイド、通訳。警察官数名、警備保障会

- ◆ 社、市政府、商工会議所、IT会社、大学教授、美術館・博物館と様々だ。日本での講義は、狭い範囲の観光関係者（旅行会社や宿泊施設）で、美術館や博物館などもいない。ましてや警察官や警備保障会社などは仲間でない。日本での観光会議も、ロシアに見習って枠を拡大したらどうか。次に、企画ディスカッション。例えば、「一年を通じて観光都市となるための商品とその商品作り」。このテーマ設定に対して、小グループに分けた討論だが、男女区別なく年齢も若きも懸命だ。その後の発表タイムは、種々の意見が飛び交い充実した観光講義になる。こんな点も日本の観光講義で見習えば、もっと身に着いた知識になろう。日本では国内外の観光専門家を招聘して話を聞くだけのセミナーが多い。
- ◆ ●ビザや言語の問題
ビザについてだが、ロシアにおける講義の初期段階では、私自身、「厳しいロシア入国ビザ」に非難めいた発言をしていたが、徐々にトーンダウン。案外、“緊急発給ビザ”などもあり、ロシアの方が便利なのかと思うようになった。次に言葉の問題。「ロシア語ばかりで不便であり、日本人の個人旅行者誘致のために英語の導入を！」と言っていたが、日本の地域における英語環境も全くロシアと似たりよったりの状況である。とにかく、ロシア人への観光講義の頻度が高まるにつれて、“観光立国ニッポン”的足らない部分がよく見えてくるのが不思議。そのためにも、今後も日ロの国際観光振興に邁進したい。

購読のお申し込み先 変更のお知らせ

月刊「ロシア通信」定期購読及びバックナンバーを希望される場合は、オンライン書店 富士山マガジンサービスよりお申込みください。

Russian Journal Monthly Research Report 2014 June Vol.170

月刊ロシア通信

6



【購読料】

1年間:	17,400円(税・送料込)
半年間:	9,200円(税・送料込)
バックナンバー:	2,500円(税・送料込)

【購読 お問合せ先】

○富士山マガジンサービス

カスタマーサービス (法人対応)

TEL:0570-200-223

【購読 お申し込み先】

○富士山マガジンサービス(新規)

TEL:0120-223-223

(年中無休／24時間営業)



表紙写真アルバム



ロシガス供給契約調印

ガスプロムのミレル社長とCNPCの周吉平董事長、その後ろで微笑むプーチン大統領と習近平国家主席。交渉は夜を徹して行われ、長年の懸案事項に一応の終止符が打たれた。(大統領府サイトより)